

# 特集 職員が選ぶこの1冊

遅くなりましたが今年初のLIKES!発行となりますね（汗）よろしくお祈りします！

まだまだ寒い日が続きますね。インフルエンザ等が流行っていますので、くれぐれも外出時は気を付けてくださいね！

さて今回の特集は「職員が選ぶこの1冊」です。

実に約3年ぶりとなるこの企画、とくにご覧あれ！

## 『探偵が早すぎる』上・下巻

井上 真偽/著 講談社 講談社タイガ

遺産相続をしたことにより、一族から命を狙われるようになってしまった女子高生・大陀羅一華<sup>だいたらいちか</sup>とある事情から絶対に遺産を手放したくない彼女は、不思議な使用人・橋田<sup>はしだ</sup>の古い友人である探偵（自称）に依頼することに…。

このお話に登場するのは起こった事件を解決するのではなく、起こる前に解決する早すぎる探偵です。

手段を選ばない一族を相手にした攻防戦がはじまります。そしてどうやら橋田にも秘密が…？

By：朔

## 『青森ドロップキッカーズ』

森沢 明夫/著 小学館

中学3年生、いじめられっ子の宏海<sup>ひろみ</sup>は、授業中に理想の自分を想像することで心のバランスを保っていた。ある日、スポーツ会館で行われるカーリング体験講座に勇気を出して参加する。運動音痴の宏海だったが、筋が良いと指導員にほめられ、それをきっかけにカーリングに興味を持つようになる。一方、宏海が体験講座で出会ったカーリング選手の柚香<sup>ゆうか</sup>は、より強くなるために新しいステージにチャレンジすることに悩んでいた。苦しくヒリヒリするようなところもあるけれど、さわやかで心地の良い物語。

By：カズ

## 『ブヒ道』

小泉 吉宏/著 ポプラ社

タイトルや表紙を見てユルイ感じがしますが…。この本は新渡戸稲造の著書『武士道』や禅僧・沢庵の各著等がベースの、まじめだけどクスツと笑える4コママンガです。

主人公・太肥丘豚兵衛<sup>たひおかとんべえ</sup>はめっぼうななまけもので弱い侍です。そんな豚兵衛に師匠は剣の技ばかりか武士の心得を教えていきます。失敗をくり返ししながら「行動を真に自分のものとするには、心をどうすればよいか」修行の日々は続いています。

By：M

## 『カレーライスを一から作る』関野吉晴ゼミ

前田 亜紀/著 ポプラ社

探検家で医師で、大学の教授である関野吉晴<sup>せきのよしはる</sup>さんが、大学のゼミで行った授業「一からカレーライス」。一から作るという気づきがあるはず…という事で、できるだけ自然に近づけて野菜、米、スパイスを栽培し、塩も海水から作った。具材として肉を入れるために鳥類を育てて、自分たちの手で屠<sup>ほふ</sup>ることにした。

作物も鳥も、命を育てる過程ではアクシデントが起きたり、メンバーそれぞれに疑問や迷いや意見の違いが出てきたりする。読み進めるうち、いつの間にかドキドキしながら一緒になって考えてしまう、一皿のカレーを巡る記録。

By：山

## 『過ぎ去りし王国の城』

宮部 みゆき/著 KADOKAWA

受験が終わり、暇になった中学生・尾垣真<sup>おがきしん</sup>はある日、家の手伝いで向かった銀行で、ボロボロだが場違いなほど美しい古城の絵画を見つけた。誤って持ち帰ってしまったこの絵画に触れたところ、何と絵の中の世界へ進入してしまった。

この謎を解明するため、あまり親しくない美術部の同級生・城田珠美<sup>しろたたまみ</sup>に声をかける。何でもこの絵画は10年前、隣町で起きた少女失踪事件に絡んだ品であったようで…。本来関わる事の無かった二人だからこそ導けた謎の答えとは？

映画『君の名は。』を見終えた後に似た読後感と、物語上では否定された中学生男女の恋の香りを感じたのは、完全に偏った個人的感想です（笑）

By：菜



## 『風の中のマリア』

百田 尚樹/著 講談社 講談社文庫

マリアは、ヴェスパ（スズメバチ科）の中でも最強と謳われるオオスズメバチのワーカー。とりわけ指折り優秀な飛行能力を持った強力な狩人だ。

「自分のためだけでなく、他の奴のために働くなんて、あんたらは不思議な生き物だ」そんな獲物とならない虫たちの言葉にも惑わされず、今日もマリアは仕える帝国（巢）と「偉大なる母」（女王）のため、そして自身の妹（幼虫）たちのため、妹のエサたり得る様々な獲物を狩っていた。

自分たちワーカーが命を燃やし続ければ、帝国は永遠に続く…そう思っていたマリアだったが、ある時初めて出会った同族のオスバチ・ヴェーヴァルトから自身の仕える帝国に迫る影と、自分たちに秘められた衝撃的な事実を知る。

それでも彼女は戦い続けた。小さなニホンミツバチの命がけの反撃、歴戦の猛者カマキリとの死闘、ヴェスパの同族・キロスズメバチとの互いの国の存亡を賭けた大戦、そして訪れる未来の「偉大なる母」たちの門出…。

調査を行っている研究者たちへ著者自ら協力を仰ぎ完成した、我々の知らないどこかにあるスズメバチのテリトリーで実際に起きた出来事に台詞を付けただけでも言えるリアリティを持ったこの物語は、戦記、興亡記、SF、ロマンス、寓話、科学読み物…実に様々なテーマを秘めたドラマとなっている。

自由で非情な厳しき弱肉強食の自然界を、己が信じる物のために戦い抜いた勇敢な戦士マリアの波乱の生涯を、どうか見守ってほしい。

## 『フラットランド』たくさんの次元のものがたり

E. A. アボット/著 竹内 薫/訳 講談社選書メチエ

ここは二次元の国「フラットランド」。高さのない不思議な世界。

主人公の学者・正方形の読者への語り、この不思議な世界に関する解説によって物語は幕を開ける。次元の人々はどんな姿をしているのか、世界はどう見えているのか、どんな人が偉いのか、どんな身分差があるのか、どんな法律があるのか、過去にどんな事件があったのか、どんな動乱があったのか…。

ある日正方形は不思議な夢を見る。一次元の国「ラインランド」の夢だ。

そこでは長さこそが空間のすべてであり、自分（正方形）は「点から線になる奇妙な奴」でしかなかった。住人にいくら自分の姿の話をして通じることがなく、怪しい魔術師か愚か者としか見られはしない。

目覚めた彼は自宅で「点から円に変化する摩訶不思議な存在」を目撃した。

「球」と名乗るその存在は1000年に一度だけフラットランドに来ることができる、スペースランドと呼ばれる三次元世界の住人だという。球はスペースランドについて説明すべく、突然姿を隠してみせたり、正方

形の体内を触ってみたりして見せたが、怪しい魔術師のような不可思議な行動を理解できない正方形。

見かねた球は、ついに正方形をフラットランドから「持ち上げ」、その瞬間正方形はすべてを悟った。

球と彼に感化された正方形は、自身の考えをフラットランド中の人々に伝えるべく、フラットランドの中核、最高議会の議事堂へ向かったが、たどり着いたその時まさに、議会の事務長である正方形の兄より読み上げられた議事録は「別世界から啓示を受けたと詐称したものを処罰すると決定した」というものだった…。

アインシュタインの四次元時空論だけでなく、昨今の重力波の観測や超弦理論の展開などで注目される高次元の数学だが、この本がイギリスで出版されたのは何と1884年！

当時のヴィクトリア朝に色濃く残っていた身分制社会とその抵抗運動を風刺しつつも、我々三次元の檻に囚われた人間が四次元以上を考えるのが難しいように、特定の次元に囚われた存在が、自分の存在する次元以上の高次元を理解することがいかに難しいか、そして、高次元をどう想像すればよいのかを示した傑作SF。

## 『働かないアリに意義がある』

長谷川 英祐/著 メディアファクトリー メディアファクトリー新書

庭先や校庭なんかで、せっせとエサを運んでいるアリの行列を見たり、『アリとキリギリス』を読んだりしていると、「彼らはなんて働き者なんだろう」と思いますよね。

でも、いざ巢を死ぬ気で観察して、働いているアリの数を数えてみたら、普段働いているアリは働きアリ全体のたった3割だけだった！？

発見された謎である「大多数の働かない、ナマケモノアリ」を、著者が楽しく解説していきます。

みんながしっかり者の会社とみんながナマケモノの会社。稼ぎが多いのはしっかり者だけど、疲れるのが早いのもしっかり者。ナマケモノばかりの会社は当然潰れてしまうから、大多数が働き者の会社が多い。じゃあアリも大多数は働き者じゃないの？実はナマケモノアリは全然働かないとは限らない！…などなど。

アリの不思議な生態も、人間社会の会社や学校に当てはめるとアラ納得！

身近なアイツやコイツにも当てはまりそうなこと満載、普段の生活でも役立つこと請け合いの楽しい解説書です。

…でも皆さんはこの本を言い訳にしないで、ちゃんと働かないとダメですよ！もちろん働きすぎには気を付けてね！

（現編集長：鐘）



## 『文学刑事サースデイ・ネクスト』1巻 ジェイン・エアを探せ!

ジャスパー・フォード/著 田村 源二/訳 ソニー・マガジンス

舞台は 1985 年のイギリス。とは言っても、別の世界のイギリスだ。そこでは特別捜査機関スペシャル・オペレーションズ・ネットワークがあり、所属する文学刑事局では、不法売買や著作権侵害、詐欺などを扱っている。主人公サースデイ・ネクストはその刑事。彼女の父は時間を操れる時間警備隊の大佐だったが、なぜか組織を離れ、特別時間安定局に追われている。ある日サースデイは捜査官の訪問を受け、ある男の捜査に加わり、そして『ジェイン・エア』の小説世界を舞台にその男と対峙することになり…奇想天外、痛快なストーリーが楽しめる。

## 『ドゥームズデイ・ブック』上・下巻

コニー・ウィリス/著 大森 望/訳 早川書房 ハヤカワ文庫

こちらも別世界のイギリスが舞台。過去へ時間旅行ができるようになり、歴史学者たちは直接研究する時代に行けるようになった。オックスフォード大学の女子学生・ギヴリンは、危険度最高ランクのため閉鎖された中世・十四世紀行きを希望する。予防接種や何やらを済ませ、無事到着したかに思えたが、現代では研究室の技術者が謎の熱病で倒れ、十四世紀のギヴリンも倒れる。やがて、中世ヨーロッパで猛威を振るったペストがギヴリンのいる村にもやってきた。次々と村人が倒れる中、必死に看病するギヴリン。ギヴリンは現代に戻れるのか?涙なくしては読めないラストは…。ヒューゴー賞・ネビュラ賞・ローカス賞受賞作。

## 『だれも猫には気づかない』

アン・マキャフリー/著 赤尾 秀子/訳 東京創元社

エスファニア公国の有能な老摂政・マンガンの下にはいつも黒煤色の猫・ニフィがいた。「私がニフィを選んだのではなく、ニフィが私を選んだ」そう彼は言う。ニフィは執務中でも全てを知るが如く彼の肩にいた。若き領主ジェイマス公が 21 歳の時にマンガンは亡くなったが、不思議なことにニフィはジェイマス公に新摂政の如く寄り添う様になった。やがて隣国の王・エグドリルから書状が届き、ジェイマス公は王を狩猟に招待する。そしてエグドリルの王妃ヤスミンの陰謀に巻き込まれていくが…。賢猫ニフィが大活躍する、猫好きには堪らない物語。

(初代編集長: (す) )

# こみみ特選

## 『STAR EGG』

### 星の玉子さま

## 『STAR SALAD』

### 星の玉子さま2

## 森 博嗣/著 文芸春秋

あまり大きくない星に愛犬ジュベリと暮らす玉子さん。

おじいさんの作ったロケットに乗り、いろいろな星へと旅をします。

行く先々での出会いの中で玉子さんは何を感じ、想うのか。

みなさんも玉子さんと旅をして一緒に考えてみてください。

作者解説付き。

ちなみに作者・森博嗣氏は、推理小説やSF小説などを多く書いています。

蓮田市図書館では彼のほかの作品もたくさん所蔵していますので、そちらもぜひ!

スタッフが選ぶ  
この1冊!

本頭編集部  
が選ぶ

